

研究活動報告

特別講演会（堀内四郎教授）

2016年4月25日（月）10:30～12:00、当研究所において、堀内四郎教授（ニューヨーク市立大学総合大学院人口学課程主任、同大学公衆衛生学大学院疫学・応用統計学部教授）による「最頻生涯年数：高齢化時代の寿命指標」（"Modal age at death: lifespan indicator in the era of longevity extension"）と題された特別講演が行われた。堀内教授は人口学における死亡・寿命研究の世界的権威であり、この分野における数多くの業績がある。今回の講演では、長寿化が進み、高齢期の死亡率改善が顕著となった先進諸国等における寿命指標として近年注目を集めている最頻生涯年数（M）が採り上げられた。一般に、寿命の指標としては平均寿命が広く用いられているが、これは生命表における死亡分布の平均値である。これに対し、Mは死亡分布の最頻値であり、高齢死亡率のみによって決定されることから、老年生存の指標として有用であると考えられるとのことであった。講演ではさらにMの他の指標との比較や特定の死亡モデルにおけるMの特性などの興味深い話題が論じられ、高齢化時代における長寿分析の最先端に触れることができた。（石井 太 記）

特別講演会

李三植（イ・サムシク）博士「韓国における近年の出生率変化と第三次政策対応 [ブリッジプラン]」

2016年6月10日（金）国立社会保障・人口問題研究所 第4・5会議室にて、韓国保健社会研究院少子高齢化対策計画団長であり、韓国人口学会会長でもあるイ・サムシク（이삼식, 李三植）博士が「韓国における近年の出生率変化と第三次政策対応 [ブリッジプラン]」というタイトルで講演された。韓国における結婚と出産の動向、低出生の原因、第1・2次低出生高齢社会基本計画の成果・評価と第3次低出生高齢社会基本計画（2016～2020）の概要について詳細に及ぶ報告があった。質疑では、評価手法について、第1・2次計画の評価は今年末に公表され、第3次計画の評価はフランス・ドイツを含む10ヶ国合同で研究チームが組まれること、非正規雇用に関するデータは定義の問題があること、教育費負担に関する政策は第1・2次計画では考えられていなかったが、第3次計画では考慮されていること、財源は、基本的に一般会計や保険（健康保険、年金、雇用保険）、自治体負担で行われるが、「低出生特別会計」を組む可能性があることなど、多くの議論が交わされた。なお、従来の特別講演会は英語で行われていたが、今回は韓国語で講演、日本語への逐次通訳が行われた。日本語・韓国語は通訳がスムーズであれば、ストレスのない交流が可能である。（林 玲子 記）

日本人口学会第68回大会

日本人口学会第68回大会は、2016年6月11日（土）～6月12日（日）に千葉県柏市の麗澤大学で開催された。大会プログラムは以下の通りである。第1日の会員総会では韓国人口学会の李三植会長の

あいさつがあり、また学会賞授与式では澤田佳世会員（学会賞）、永瀬伸子会員（優秀論文賞）、是川夕会員（優秀論文賞）、松田茂樹会員（普及奨励賞）にそれぞれの賞が授与され、受賞者からあいさつがあった。

第1日 2016年6月11日（土）

企画セッション① 地域特性や個別環境による出生率格差を考える

<組織者・座長> 早乙女 智子（京都大学）

<討論者> 佐藤 龍三郎（中央大学）・中澤 港（神戸大学）

1) 少子化の進行にともない低出生体重児出生数はどう変化するか？

～人口動態統計による将来簡易推計の試み～ …………… 網塚 貴介（青森県立中央病院）

2) 被災地女性の健康と出産環境 …………… 吉田 穂波（国立保健医療科学院）

3) 子育て支援、保育環境における地域格差と出生率 …………… 猪熊 弘子（お茶の水女子大学・院）

4) 生殖補助医療が出生率に果たした役割とその地域格差 …………… 早乙女 智子（京 都 大 学）

テーマセッション① 持続可能な開発目標（SDGs）と人口開発問題のゆくえ

<組織者> 林 玲子（国立社会保障・人口問題研究所）

<座長・討論者> 阿藤 誠（元国立社会保障・人口問題研究所）

1) 新開発目標策定の経緯と日本の取り組み …………… 池上 清子（日 本 大 学）

2) 国際人口移動転換の再検討—戦後日本を例とした分析— …… 是川 夕（国立社会保障・人口問題研究所）

3) 国際人口政策が開発途上国の世帯の家族計画へ及ぼす影響

—ルワンダ東部県・農村部を事例に …………… 島村 由香（東京大学・院）

松田 浩・関山 牧子（東 京 大 学）

Theogene Abaho（Univ. of Lay Adventists of Kigali）

Nael Aoun（東京大学・院）

Geetha Mohan（東 京 大 学）

松岡 拓也・佐々木 貴代（World Vision Japan）

4) 出生・死亡登録と動態統計～現状と課題 …………… 林 玲子（国立社会保障・人口問題研究所）

自由論題報告 A

A-1 結婚 1

<座 長> 永瀬 伸子（お茶の水女子大学）

1) 女性の配偶者探索行動の日米比較 …………… 茂木 暁（東 京 大 学）

2) 未婚の男女が理想とする女性のライフコースの動向—出生動向基本調査を用いた分析—

…………… 中村 真理子（国立社会保障・人口問題研究所）

3) 変化する結婚行動と女性労働力率との関係

…………… ジェームズ・レイモ（ウィスコンシン大学マディソン校）

A-2 結婚 2

<座 長> 大石 亜希子（千葉大学）

4) 日本の女性の就業と子育て支援 …………… 可部 繁三郎（日本経済新聞社）

5) 結婚満足度の指標と出生 日本の夫婦の場合 …………… 吉田 千鶴（関東学院大学）

6) 親と同居の壮年未婚者の最近の状況 …………… 西 文彦（総務省統計研修所）

7) 晩婚・晩産化と就業・家族関係の検証—日本・台湾の比較から—

..... 寺村 絵里子 (明海大学)
孔 祥明 (世新大学)

自由論題報告 B

B-1 人口移動 1

<座長> 阿部 隆 (東北大学・院)

1) 高齢者の健康と居住地移動—成人子との居住関係との関連を中心に—

..... 中川 雅貴 (国立社会保障・人口問題研究所)

2) 日本からタイ・チェンマイへの国際引退移動

中川 聡史 (埼玉大学)

丹羽 孝仁 (帝京大学)

3) 日本の国内引退移動再考

石川 義孝 (京都大学)

B-2 人口移動 2

<座長> 川瀬 正樹 (広島修道大学)

4) 戦後日本の都道府県別人口移動—合計純移動率 TMR による分析

..... 廣嶋 清志 (島根大学)

5) 日本の地域別帰還移動

貴志 匡博 (国立社会保障・人口問題研究所)

6) 東京都区部における都心回帰の人口学的分析

小池 司朗 (国立社会保障・人口問題研究所)

自由論題報告 C

C-1 少子化対策と人口政策

<座長> 魚住 明代 (城西国際大学)

1) 少子化対策「子ども・子育てビジョン」をめぐる考察

佐藤 晴彦 (平成国際大学)

2) 教育・保育施設等における重大事故の再発防止について

前田 正子 (甲南大学)

3) 中国の新人口政策について

尹 豪 (福岡女子大学)

C-2 Vital Events and Dynamics of Population in Asia

<Chair> Junji Kageyama (Meikai University)

4) Ethnic Differentials in the Effects of the 1st Marriage and the Marital Reproduction on Fertility in Singapore

... Keita Suga (National Institute of Population and Social Security Research)

5) Reconstructing the Historical Geographies of Colonial Hong Kong

..... Tzee Kiu Edwin Chow (Texas State University)

6) Substituting Morbidity for Fatality in Taiwan

..... Yi-Jhen Dong, Kuanjeng Chen (Chang Gung University)

7) Gender Role Shift and New Educational Mating: Evidence from Japan

..... Setsuya Fukuda (IPSS)

James M. Raymo (Univ. of Wisconsin-Madison)

公開シンポジウム 日本人口学会・麗澤大学共催 廣池千九郎生誕150年記念事業

人口政策の成り立ちを考える～ Linking Past to Present ～

<開催校代表> 中山 理 (麗澤大学学長)

<組織者> 加藤 彰彦 (明治大学)・黒須 里美 (麗澤大学)

<座長> 原 俊彦 (札幌市立大学)

- 1) 近世日本の妊娠・出産管理—「いのち」をめぐるせめぎあい … 沢山 美果子 (岡山大学)
- 2) フランス家族政策の起源—19世紀から第2次世界大戦まで— … 大塩 まゆみ (龍谷大学)
- 3) 戦間期スウェーデンにおける人口減少の危機とミュルダール … 藤田 菜々子 (名古屋市立大学)
- 4) 戦間期日本における優生・優境主義の形成と展開 …………… 杉田 菜穂 (大阪市立大学)

第2日 2016年6月12日 (日)

企画セッション② Marriage and Family Building in Historical East Asia

<Organizer> Satomi Kurosu (Reitaku University)

<Chair> Noriko O. Tsuya (Keio University)

<Discussants> James M. Raymo (Univ. of Wisconsin)

Toru Suzuki (National Institute of Population and Social Security Research)

- 1) Missing Girls and Missing Boys: Differential Effects of Marital Residence, Co-resident Kin, and Household Wealth in Two Japanese Villages, 1716-1870
………… Hao Dong (Hong Kong University of Science and Technology, Reitaku University)
Satomi Kurosu (Reitaku University)
- 2) An Opportunity Cost Approach to Fertility Pattern in 19th to Early 20th Century Korea
………… Jane Yoo, Sangkuk Lee (Ajou University, Korea)
- 3) A Historical and Demographical Analysis of Uxorilocal Marriage in Hsin-Chu Area During Japanese Colonial Rule in Taiwan
………… Wenshan Yang (Academia Sinica, Taiwan)
- 4) Education, Class and Marriage in Rural Shanxi, China in the Mid-20th Century
………… Xing Long (Shanxi University)
Cameron Campbell (Hong Kong University of Science and Technology)
Matthew Noellert (Shanxi University; University of Iowa)
James Z. Lee (Hong Kong University of Science and Technology)

企画セッション③ 未婚者の現在と将来

<組織者・座長> 水落 正明 (南山大学)

<討論者> 筒井 淳也 (立命館大学)・西村 智 (関西学院大学)

- 1) 現代日本における未婚者の経済生活 …………… 永井 暁子 (日本女子大学)
- 2) ファミリー・フレンドリーな職場の未婚者 …………… 水落 正明 (南山大学)
- 3) 未婚者と将来不安 …………… 久木元 真吾 (家計経済研究所)
- 4) 結婚意欲と親子関係 …………… 中西 泰子 (相模女子大学)

自由論題報告 D

D-1 地域社会

<座長> 森木 美恵 (国際基督教大学)

- 1) 日本の地域活動参加からみた家族構成員の役割の現状と課題—社会生活基本調査による分析
…………… 西村 教子 (公立鳥取環境大学)
- 2) 日本における「男町」と「女町」の成り立ち …………… 坂井 博通 (埼玉県立大学)

- 3) 人口減少社会日本における伝統宗教の現況と課題—高知県下の過疎地域を事例に—
 冬月 律 (麗澤大学)

D-2 高齢化

<座長> 岡田 豊 (みずほ総合研究所)

- 4) 中国の人口問題—高齢政策とシルバー産業の考察 轟 海松 (東京農工大学)
 5) 住宅所有関係から見る高齢者の孤立状態の地域較差 丸山 洋平 (福井県立大学)

自由論題報告 E

E-1 死亡

<座長> 稲葉 寿 (東京大学)

- 1) 死亡率の地域差の要因分析に基づくグルーピングと将来推計
 井川 孝之 (PwC あらた監査法人)
 2) 明治初期の神奈川縣における天然痘死亡率 川口 洋 (帝塚山大学)
 3) わが国における長期時系列死因別死亡統計の構築
 大津 唯・是川 夕・石井 太 (国立社会保障・人口問題研究所)

E-2 生命表

<座長> 高橋 佳宏 (住友生命)

- 4) 生命表の長期時系列構築に関する研究 石井 太 (国立社会保障・人口問題研究所)
 5) 傷病と健康からみた通院期間の人口学的分析：2001, 2013年
 別府 志海 (国立社会保障・人口問題研究所)
 高橋 重郷 (明治大学)
 6) 占領期沖縄の生命表における乳児死亡届出の正確性に関する認識と“沖縄＝伝統的長寿県”説
 逢見 憲一 (国立保健医療科学院)

テーマセッション② Marriage and Family Building in Contemporary East Asia

<Organizers> Toru Suzuki (IPSS) Satomi Kurosu (Reitaku University)

<Chair> Wenshan Yang (Academia Sinica, Taiwan)

<Discussants> Cameron Campbell (Hong Kong University of Science and Technology)
 Tsukasa Sasai (Fukui Prefectural University)

- 1) Demographic Transition in Eastern Asia: A Comparative Perspective
 Toru Suzuki (IPSS)
 2) Fertility Decline in East Asia: A Comparative Analysis of Japan, South Korea, and China
 Noriko O. Tsuya (Keio University)
 3) The Cause and Consequences of Childlessness in Japan
 Nobuko Nagase (Ochanomizu University)
 4) Change in Family Structure and Its Demographic Implications in South Korea
 Samsik Lee, Hyojin Choi (Korea Institute for Health and Social Affairs)

企画セッション④ セクシュアル・マイノリティに関する人口学的研究—日本における研究動向の今—

<組織者・座長> 釜野 さおり (国立社会保障・人口問題研究所)

<討論者> 和田 光平 (中央大学)

- 1) 計量研究におけるクィア・フェミニスト方法論の可能性

—「LGBT 職場環境アンケート 2015」の分析結果から

- 平森 大規 (ワシントン大学・院)
- 2) 計量調査によるセクシュアル・マイノリティの現状把握への期待と課題
—NHK「LGBT 当事者アンケート」と「国勢調査」から見えてくるもの
..... 岩本 健良 (金沢大学)
- 3) セクシュアル・マイノリティと「家族計画」 藤井 ひろみ (神戸市看護大学)
- 4) 戦後日本における「ホモ人口」の成立と「ホモ」の脅威化
—男性同性愛に関する雑誌記事の言説分析 石田 仁 (明治学院大学)
- 5) 性的指向と性自認 (SOGI) を視野にいれた人口学的研究のこれから
..... 釜野 さおり (国立社会保障・人口問題研究所)

自由論題報告 F

F-1 妊娠と出産

<座長> 玉置 えみ (学習院大学)

- 1) 日本における無子率の動向と無子女性の特性に関する分析
..... 守泉 理恵 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 2) 日本のカップルにおける年齢と妊娠待ち時間 小西 祥子 (東京大学)
早乙女 智子 (京都大学)
鶴巻 香奈子 (東京医療保健大学)
佐方 奏夜子 (東京大学)
Kathleen A. O'Connor (Univ. of Washington)
- 3) 「越境出産」がもたらす人口問題：香港の事例から 梁 凌詩ナンシー (立命館大学)
- 4) インドにおける出生力変動と地域格差—2001年および2011年センサスからの考察
..... 西川 由比子 (城西大学)

F-2 地域と出生

<座長> 鈴木 允 (横浜国立大学)

- 5) 都心からの距離と出生率との関係 増田 幹人 (駒澤大学)
- 6) 都道府県別にみた出生力転換の空間分析～空間計量経済モデルに基づく拡散過程の検証～
..... 鎌田 健司 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 7) 東京大都市圏の夫婦の子ども数は少ないのか? 山内 昌和 (国立社会保障・人口問題研究所)

自由論題報告 G

G-1 人口統計

<座長> 大林 千一 (帝京大学)

- 1) 平成27年国勢調査の実施状況—世界最大規模のオンライン調査の実施—
..... 高野 義幸 (総務省統計局)
- 2) 人口・住宅を対象とする最近の統計調査結果の精度 山田 茂 (国士舘大学)
- 3) パプアニューギニア低地住民における過去30年間の人口変動 萩原 潤 (宮城大学)

G-2 経済と人口

<座長> 山田 勝裕 (京都産業大学)

- 4) 日本の人口経済の将来像—簡易人口経済計量モデルによるシミュレーション分析—
..... 大塚 友美 (日本大学)

- 5) 家計の収支動向と出生率への影響 伊原 一 (統計センター)
- 6) 経済学と生物学における生命価値の導出と, その人口学的含意
 影山 純二 (明海大学)
 (鈴木 透 記)

シリア難民危機に関するハイレベルポリシーフォーラム (OECD 主催), 並びに移民政策に関する作業部会 (OECD 主催) 参加報告

6月15日から17日にかけてフランス, パリにある OECD 本部でシリア難民危機に関するハイレベルポリシーフォーラム, 並びに移民政策作業部会 (Working Party on Migration: WP2) が開催され, 日本政府からは, 厚生労働省の外国人雇用対策課副課長補佐とともに, 国立社会保障・人口問題研究所からは是川が参加した。移民作業部会とは, OECD の雇用労働社会問題委員会 (ELSAC) の下に設置されている国際移民に関する作業部会であり, OECD 加盟国各国の移民政策に関する専門家が参加し, 各国の参加者との最新の情報, 意見交換を行うことを目的としたものである。

会合は3日間の日程で行われ, 初日はシリア難民危機に対する OECD 加盟国の対応, 及び協力関係の構築について議論された。冒頭, 国連サミットスペシャリアドバイザーの Karen AbuZayd 氏が基調講演をするほか, OECD から事務総長特別顧問の Gabriela Ramos が参加するなど, どちらかというとうちとけた雰囲気で行われる移民作業部会と異なり, 緊張度の高い会合となった。

その後, 2日間にわたって開催された移民政策作業部会では OECD 側で進行中の移民政策に関するプロジェクトの進捗について報告が行われるとともに, それを受けた各国からの最新の情報の報告が行われた。移民政策に関して, 日本は目立った存在ではないものの, 抱えている問題には共通するものが多く, 日本からも積極的に情報発信するとともに各国代表とのネットワークにも積極的に努めた。
 (是川 夕 記)

アジアの国際移動に関する国際会議

6月20日から21日にかけて中国香港特別行政区にある香港中文大学にて, アジアの国際移動に関する国際会議が開催され, アメリカ, カナダ, 英国, 香港, 台湾, 韓国からの参加者とともに, 日本からは是川が研究報告を行った。同会議はトロント大学の Eric Fong 教授の呼びかけで行われたもので, 近年, 存在感が増すアジアの国際移動について知見を有する研究者が一堂に会し, 研究報告を行うことを目的としたものである。

アジアの国際移動の特徴の一つとして, 国際的な移民産業が発達していること, また, 家事労働者など女性の国際移動が活発であることが指摘されている。研究報告は主にこうした点を巡って行われるとともに, アメリカ, カナダ, そして英国といった移民研究の先進地域の知見を参照しつつ, アジアの国際移動を説明する新たな理論枠組みの構築の必要性も提起された。また, 是川からは, 日本における外国人労働者の経済的達成の状況について報告を行い, 他の参加者から大きな関心を寄せられた。

同会議を主催した Eric Fong 氏はアジア地域の国際移動に関して研究を深めるため, 2016年の7月より香港中文大学の教授として就任しており, 私からも今後, 緊密に連携していきたい旨を伝えた。
 (是川 夕 記)